

# 未来の子どもたちに

## 今よりもステキな

### 四国中央市を届ける

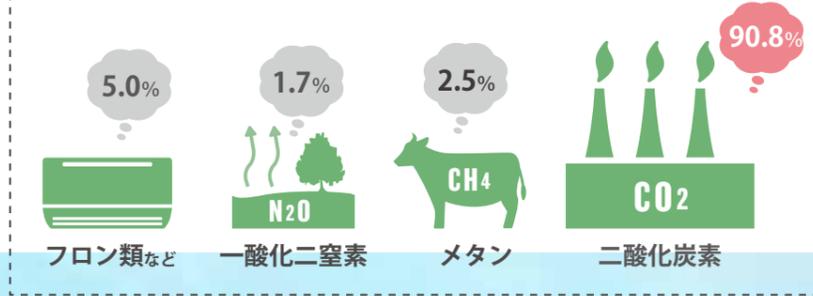
世界の平均気温は工業化以前（1850～1900年）と比べ、既に約1.1℃上昇したと言われています（2020年時点）。

このまま地球温暖化が進めば、私たちの暮らしはどうなるのでしょうか？

海面上昇により浸水などのリスクが高まったり、豪雨や猛暑のリスクが更に高まったりすることが予想されています。

2020年10月、政府は世界的に加速する地球温暖化対策として「2050年までに温室効果ガスの排出を全体としてゼロにする」、「カーボンニュートラル」を目指すことを宣言しました。

温室効果ガスの種類と割合（2020年度／環境省）



## カーボンニュートラルって？

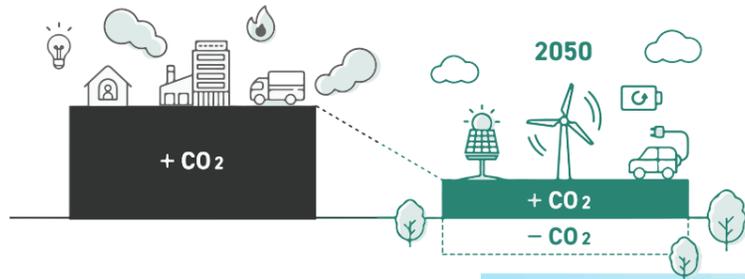
カーボンニュートラルは「温室効果ガスの排出を全体としてゼロにする」とは、二酸化炭素（CO<sub>2</sub>）をはじめとする温室効果ガスの「排出量」（人為的なもの）から、植林や森林管理などによる「吸収量」を差し引いて、合計を**実質的にゼロ**にすることを言います。

つまり、カーボンニュートラルの達成のためには、温室効果ガスの排出量の削減と、吸収作用の保全及び強化の両方が必要です。

温室効果ガスは、私たちの経済活動・日常生活によって排出されています。

日本全体の温室効果ガス排出量の約6割が、国民一人ひとりの衣食住や移動といったライフスタイルに起因しているという分析もあります。

カーボンニュートラルの実現に関係のない人はいません。誰もが主体的に取り組む必要があります。



カーボンニュートラルのイメージ（環境省ホームページより）

また、カーボンニュートラルはSDGsの目標7と目標13と深く関わっています。SDGsに取り組むことが、カーボンニュートラルの実現にもつながります。



## 特集

# 紙のまちのカーボンニュートラル

The best paper city

「カーボンニュートラル」直訳すると「炭素中立」。何かを生産するなど、人為的な活動を行った際に大気中に排出される二酸化炭素と、大気中から吸収される二酸化炭素の量が等しく、全体としてゼロとなっている状態を指す。

## 四国中央市ってどうなの？

では、本市は1年間にどれくらいのCO<sub>2</sub>を排出しているのでしょうか。

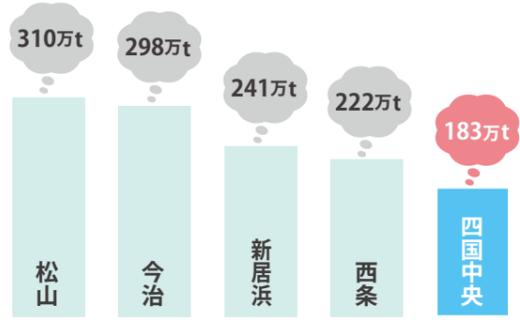
環境省の推計によると、本市の年間排出量（2019年度）は183万ト。これは県全体の排出量の約12%にあたり、県下で5番目の多さです。また一人当たりの排出量は22.1トで、県下2番目の多さです。

排出量の内訳を見ると、産業部門、特に製造業が143万トと、全体の78%

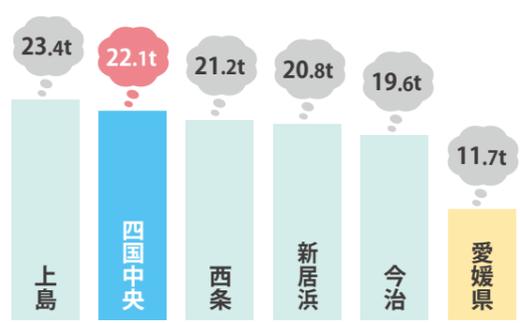
を占めています。（いずれも参考値）

本市は「日本一の紙のまち」であるとともに、CO<sub>2</sub>が地球温暖化に影響することをいち早く問題提起し、昨年ノーベル物理学賞を受賞した「真鍋淑郎博士の出身地」でもあります。

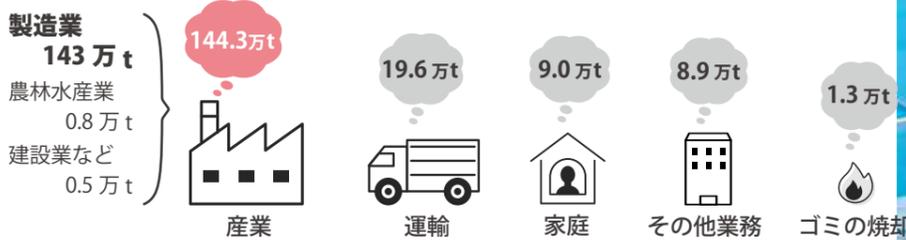
カーボンニュートラルを実現するために、市を挙げて取り組んで行くことが求められます。



自治体別年間CO<sub>2</sub>排出量（抜粋）



1人当たり年間CO<sub>2</sub>排出量（2020国勢調査人口により算出）



本市の部門別年間CO<sub>2</sub>排出量

2020年に稼働を始めたバイオマス発電設備（村松町）。従来の施設と比べて、CO<sub>2</sub>の排出を年間2万5千トンを削減できる。



## 「世界中の人々へやさしい未来をつむぐ」 大王製紙株式会社

**当** 社がCO<sub>2</sub>を含む温室効果ガスの削減について動き始めたのは、1997年に京都議定書が採択されたことがきっかけでした。

2015年にパリ協定が採択され、「カーボンニュートラル」や「脱炭素社会」に世間の注目が集まるようになると、お客さまから「製品の製造過程におけるCO<sub>2</sub>の排出量」に関するお問い合わせが増えるようになりました。

これらの声に当社は、「CO<sub>2</sub>排出量の削減は、ひとつの「品質」である」と考え、カーボンニュートラルに対応していかなければ、お客さまから選んでもらえなくなるという危機感を抱きました。そこから社内でカーボンニュートラルに関する取り組みが加速していったのです。

**2** 021年5月には「大王グループサステナビリティ・ビジョン」を発表し、その中でカーボンニュートラルの実現に向けた取り組みを示しました。

そこでは、2050年のカーボンニュートラルはもちろん、「2030年に化石燃料由来のCO<sub>2</sub>排出量を、2013年比で46%削減する」という具体的な目標を打ち出しています。

現在、当社グループのエネルギー利用割合の約半分は、石炭や重油などの化石燃料に由来しています。これを減らすために、バイオマスなどCO<sub>2</sub>の排出量が少ない非化石エネルギー、特に廃棄物燃料の比率を高めています。

**「世** 界中の人々へやさしい未来をつむぐ」は、2016年に制定した当社の新たな経営理念です。社会課題の解決を織り込んだ経営理念の下、持続可能な社会の実現に、今後もグループを挙げて取り組んでまいります。

この人に聞きました



大王製紙株式会社  
生産本部  
エネルギー企画部  
こんや 紺家幸治 部長

れると、その焼却や埋設によってもCO<sub>2</sub>を排出します。

これらの廃棄物を当社が持つ技術を使い、新たな紙の「原料」と「燃料」として取り出します。この燃料を、紙を作るためのエネルギーとして再利用すれば、消費地におけるCO<sub>2</sub>の排出を削減することができます。

自社から排出されるCO<sub>2</sub>の削減だけでなく、社会全体のカーボンニュートラルの実現を、当社は目指しています。

このような中、産業部門では、市内の製紙企業を中心に「四国中央市カーボンニュートラル協議会」が設立されました。

紙製品の製造品出荷額等が16年連続全国1位である本市は、製紙業や紙加工業そしてこれらを支える紙関連産業が集中して立地する日本一の「紙のまち」です。

特に製紙業は「エネルギー多消費産業」とも言われ、紙を製造する工程の中で石灰などの化石燃料を使用していることから、どうしてもCO<sub>2</sub>の排出量が多くなる傾向にあります。

これまで製紙業界では、企業ごとにさまざまな環境配慮の取り組みを進めてきました。しかし今後は個々に取り組むのではなく、カーボンニュートラルの実現に向けた更なるエネルギー転



第1回カーボンニュートラル協議会には、業界内外から100人以上が参加した(R3.7.28)

換のため、地域内の企業同士が連携し、より効率的に取り組んで行くことが必要です。

現在協議会では、水素やバイオマスなどの、代替エネルギー候補の安全性や経済性の技術検証、政策動向に関する情報収集を行っています。

そして、今年度末までに、地域の脱炭素化に向けたロードマップを策定する予定です。

温室効果ガスの削減を求められているのは、産業部門だけではありません。

昨年10月に閣議決定された「地球温暖化対策計画」の中では、家庭においても2030年までに、CO<sub>2</sub>の排出量を2013年と比べて66%削減する必要があるとしています。

このように、カーボンニュートラルは全ての人が取り組むべき課題です。

未来の子どもたちに、今よりもステキな四国中央市を届けるために、皆さまの日常生活や経済活動の中で、カーボンニュートラルや脱炭素につながる事を、できる事から取り組んでいきましょう。

問い合わせ先  
政策推進課 28・6005

## 2021年6月 四国中央市 カーボンニュートラル協議会 設立

## 未来の子どもたちに 今よりもステキな 四国中央市を届ける

ひとりひとりが  
できることを！



省エネ住宅に住もう！



エネルギーを  
節約・転換  
しよう！



持っている服を  
長く大切に  
着よう！



食品ロスを  
なくそう！



環境保全活動に  
積極的に  
参加しよう！



CO<sub>2</sub>の少ない  
製品やサービスを  
選ぼう！



CO<sub>2</sub>の少ない  
交通手段を  
選ぼう！



捨てずに  
次につなごう！

ゼロカーボンアクション30（環境省）より